

企画・編集：真鍋徳子 自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科

序 説

新型コロナウイルスの世界的なパンデミックが始まってから、はや3年が経とうとしている。日本国内でも、想定を超える第8波に見舞われ、2023年1月末現在で累計3,300万人を超える感染者が報告されている。

ちょうど1年前、COVID-19後遺症の特集を本誌で組ませていただいた。そのときはポストコロナを見据えた企画であったが、現時点でもまだまだパンデミックの終息はみえない状態である。2023年1月末現在、日本国民の6割以上がCOVID-19ワクチン3回目を接種終了している。4回目以降の接種として、従来株およびオミクロン株BA.1、または従来株およびオミクロン株BA.4-5に対応した2価ワクチンが接種可能となったが、ウイルス変異とのいたちごっこは続き、変異株対応可能なユニバーサルワクチンの開発まで、まだまだCOVID-19ワクチンとは縁が切れない状態である。日本政府はついに5類への移行を決定し、季節性インフルエンザワクチンのように、毎年COVID-19ワクチンを打ち続けるという噂も現実味を帯びてきた。否が応でもCOVID-19ワクチン接種後の患者をみることは避けて通れないし、意外にも画像にさまざまな所見が現れてくる。

本特集では、TVなどのマスメディアでもおなじみの日本医科大学の北村義浩先生にCOVID-19ワクチンの基本について解説いただいた。『臨床画像』の長い歴史のなかでも、ワクチンの構造や免疫について解説した企画はまれであると思うが、このmRNAというユニークな構造のワクチンを放射線科医といえども一度おさらいしておく機会になればと思う。

北海道循環器病院の相川忠夫先生らにはCOVID-19ワクチン関連の心血管合併症を、自治医科大学附属さいたま医療センターの真鍋 治先生らにはCOVID-19ワクチン後のPET所見について、ミシガン大学の黒川真理子先生らにはCOVID-19ワクチン後の画像所見(中枢神経そのほか)についてと、放射線科医として目にする可能性のある画像所見を中心にご解説いただいた。

COVID-19ワクチンによる副反応なのか、現時点では証明しえない部分も多いが、われわれが前向きにデータを積んでいくことでしかエビデンスとして確立できない。まずは問診などで接種歴を確認、所見を拾い、疑うという基本が大事である。

本特集が明日からの皆様の診療にお役に立てば幸いである。

真鍋徳子